2026年度春学期授業アンケート概要について

2026年10月
大学戦略・IR室

2026年度春学期授業アンケート
実施期間：2026年7月9日（木）～7月31日（金）
回答率：46.4%（2025年度春学期実績 47.1%）

本学では、教育の質の維持・向上および授業改善を目的として、毎学期、全学的に授業アンケートを実施している。2026年度春学期においても、全授業科目を対象としてアンケートを実施し、その結果を分析した。

本アンケートの結果によれば、「この授業全体を評価すると次のどれにあたりますか」という設問に対して、「とてもよい」および「よい」と回答した学生の割合は76.2%（昨年度75.3%）となっており、本学の授業は全体として一定の満足度を維持していることが確認された。

また、「この授業の内容について関心を持ち、授業内容についてさらに深く勉強したいと思いましたか」という設問については、87.8%（昨年度86.4%）の学生が肯定的な回答を示しており、学生の学修意欲は引き続き高い水準にあるといえる。さらに、「この授業では、教員の話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」という設問に対しても、89.8%（昨年度88.8%）の学生が肯定的に回答しており、教員による説明のわかりやすさが高く評価されていることがうかがえる。

加えて、「この授業はシラバスに沿って行われていましたか」という設問に対しては、94.5%（昨年度93.7%）の学生が肯定的な回答を示しており、授業運営の適正性が高い水準で確保されていることが確認された。

一方で、授業外学習時間については、「1時間未満」および「1～2時間」と回答した学生の割合が合計78.1%（昨年度80.2%）を占めており、多くの学生が授業外学習に十分な時間を確保できていない状況が見られる。このことから、学生の主体的な学修を促進し、学習習慣の定着に向けたさらなる取組の必要性が示唆されている。

また、学科別の集計結果においても、教員の説明のわかりやすさやシラバスに沿った授業運営については、概ね高い評価が得られている。一方、授業外学習時間や授業への積極的な参加、学修到達目標の達成状況については、学科間で一定の違いが見られた。これらの違いには、各学科の教育内容や授業特性などが関係している可能性もあり、今後の授業改善を検討するうえで参考となる結果である。

以上の集計結果から、微増ながら、全学的な教育改善の成果が出始めているといえる。授業満足度の維持・向上に向けては、教員によるわかりやすい説明や適切な授業運営を継続するとともに、学生の主体的な学修を促す授業改善を一層推進することが重要である。そのうえで、各学科の教育内容や学修特性の違いを踏まえ、それぞれの特色に応じた取組を計画的かつ継続的に展開していくことが必要であるといえる。